

啓伸塾便り

しもつき
11月霜月
November

〒五〇一-六〇五一
岐阜県羽島郡笠松町上本町三十六
啓伸塾
発行者 福井 伸次

中学生のみならず、今月は中間テストです！

勉強においては、必要最低限のことは覚えなさいとテストで点数は取れません。それは、この教科にもいえることです。
しかし、暗記が苦手というお子がいます。原因をこのように上げます。
① 単純に回数が足りません

例えば、英単語を例にとってみます。英単語を覚えるポイントは、「1か月以内の一回同じ単語を書く」「1か月で覚えるのではなく、必ず覚えられます。やらなければ覚えられないのです。

「make」などの英単語があります。この単語を真剣に覚えた人はいないと思いませんか。「make」なんて覚えなさいといわれても、今日の授業で出てきて明日も出てくる、雑誌や街中で目にする機会が多いため、最も忘れてしまったら、みんなに笑われるので、何かあっても覚えるわけです。

ところが、中学三年で、この単語の survey (調査) なんて単語は、教科書に出てくる単語なので基本単語なのですが、仮に今日出てきても、次は、テスト勉強をする時しか出てきません。ですから、一か月後かもしれません。

そんな時間に空いたら、絶対に忘れます。それが正常なのです。だから、いくら単語帳に目を通していても、毎日朝テストで英単語をやるのが、時間をかけても忘れてしまうのは、「短時間に何度も」という一番大事なことが欠けてしまっているからなのです。

ではどうするか。エビングハウスの忘却曲線というのがあります。

世界基準の子育て 船津徹 著より

子どもたちが生きる数十年後は、いったいどんな未来になっているのでしょうか。それを予想するのは難しいですが「劇的な変化が次々に起きる社会」であることは確かでしょう。そんな未来を生き抜くには、どんな力が必要でしょうか？それは、「世界基準の子育て」にある「読解力」です。

日本では「読む力」の重要性についてあまり議論されることはありませんが、欧米では生徒の学力向上のために「読む力」を身につけさせることがいかに重要であるかが、長年研究されています。

例えば「9歳までに読む力が身につかないと、学年が上がってから勉強に追いつくのが難しくなる」という研究報告を受け、南カリフォルニアを中心に「9歳までの読む力の重要性」を啓蒙するキャンペーンが行われています。

いわゆる9歳の壁は「生活言語」から「学習言語」への移行と関わっています。授業内容が具体的思考から抽象的思考へ、直接体験から間接体験へとシフトしていく小学4年生頃になると、勉強についていけなくなる子どもが急増します。

日常生活の身近な話題から、文化、歴史、経済、科学などテーマが広がっていく時、語彙力や読解力が発達していないと対応が難しくなってしまうのです。これはアメリカに限った問題ではありません。日本でも「10歳の壁」「小4の壁」が話題になっていますが、同じ理由です。日本では、算数でいうと小4の「分数の表し方」の学習が始まる頃です。

語彙力と読解力の土台ができないと、算数の文章題でつまずいたり、社会や理科の用語が理解できなかったり、勉強面で苦手意識が強くなってしまいます。

本の読み聞かせて、想像力を膨らませることが読解力の第一歩

では、読解力を身につけるにはどうすればよいのでしょうか？ その一番の方法は、「読書」です。

読解力には想像力と論理力があり、まずは「本の読み聞かせ」によって想像力をふくらませるトレーニングができます。優秀な子どもの家庭では、もれなく子どもが読書好きに育っていますが、これは親が小さい時に読み聞かせを行っている場合がほぼ100パーセントです。

もともと、すべての子どもは豊かな想像力を持って生まれてくるのですが、この力は訓練しないとどんどん弱くなってしまいます。読み聞かせを行うことで想像力強化の訓練ができます。

また、読み聞かせの際、子どもに本の内容について問いかけることが大切です。そして、本を読む習慣がついた子、または、小学校高学年、中学生の子では、その子が選んだ本(読んでほしい本)を親と一緒に読んで、その内容について話し合うことも読解力育成には有効です。

読書は読みっぱなしでは、読解力は身につけません。読んだらその内容について考えることが大切です

今月の予定

- 11月 3日(金) 文化の日 通常授業を行います
- 11月 4日(土) 中間テスト対策 境川中 午前・午後
中3 入試対策講座
- 11月 5日(日) 第3回岐阜新聞学力テスト
- 11月11日(土)・12日(日) 中間テスト対策
- 11月23日(木) 勤労感謝の日 塾の授業を行います。
- 11月25日(土) 中3入試対策講座 休み

※中学中間テスト対策の詳しいご案内は、別紙をご覧ください。

これによると人間は1時間で約半分、1週間で約8割は忘れます。
ですから、**忘れたらもう一度読む必要があります。**忘れたらすべて忘れたわけではないので、復習は最初ほど時間がかかりませんが、覚えたことは、次のテストで使えます。最終的には高校入試で使えます。

② 当事者意識が足りません

世の中の多くの人は、学歴やこれまでの勉強量と関係なく、自動車や原付バイクの免許を取っています。この免許を取るのとはそんなに簡単ではありません。しかし、多くの大人がこの免許を持っています。なぜでしょう？それは、必要に迫られたからです。免許を持っていないと就職の際、選択肢が少なくなります。

当事者意識があったから、必要に迫られ勉強して免許に必要なことを覚えたのです。

結論

勉強を苦手とする子は、繰り返し返すように勉強の時間が少ない。そして、勉強に対して当事者意識がなっています。

勉強の苦手な子ほど、わからなかったら、人に聞けばいいと思っています。しかし、当事者意識がないので、人に聞いても覚えられない。だから、同じ質問を何度もしてきます。

高校受験は、すべての中学生にかかわることです。そして、自分一人に挑戦しなくてはなりません。

出来たこと、できたこと、やったこと、やったこと、やったこと。